



ホームホスピス「みのりの家」と私

11年間温め続けてきた夢が、今年ついに実現に向けて動き出しました。

私が立ち上げるホームホスピスは、最も尊敬する舅の名前から「みのりの家」と名付けました。

夫の両親とは25年間共に暮らし、たくさんの思い出がありますが、同時に反省や後悔も残っています。最期を自宅で看取ることができなかったことは、今も私の胸を締め付けます。全国ホームホスピス協会の市原理事長が仰った「看取りは、後戻りできませんから」という言葉が、深く心に刻まれています。

看取り士、そしてホームホスピスとの出会い

2013年、私自身の死生観を深めたいという思いから、一般社団法人日本看取り士会の研修に参加しました。そこで「看取り学」や「看取りの作法」といった、これまでの看護師としての視点とは異なる学びを得て、新たな気づきがありました。

この研修がきっかけで、神戸でホームホスピス「なごみの家」を運営されている看護師の松本京子さんにお会いし、実際に施設を見学させていただきました。

そして2022年には、全国ホームホスピス協会の「ホームホスピスを創る学校」に入学。6ヶ月間の学習と3週間の神戸でのホームホスピス実習を経て、ホームホスピス立ち上げの資格を取得しました。

私の経験から…

これまで訪問看護師として看取りの現場に立つ中で、最期は自宅だと決めていたものの、土壇場になって自宅での看取りが困難になる状況に何度か遭遇したことがありました。

その度に、「私の家に連れて行っちゃりたい！」と何度も何度も思い悩んだことがありました。このような思いを抱き続け、「高知にホームホスピスを立ち上げたい、創らなければ」と強く思うようになりました。

「みのりの家」が紡ぐ未来

諏訪中央病院の鎌田實先生は「医療の現場で『一人ひとりの人生の物語』を大切にしてきた」と語られています。

私は、「みのりの家」を、そこに住まわれる方々や関わる全ての方々の人生が、最期まで夢や希望を抱ける場所、そして物語が生まれる場所にしたいと願っています。そして、「てのひら」のスタッフたちが笑顔で幸せを創り出せるよう、愛と勇気を胸に、これからも頑張っていきます。

皆様のご協力をいただきながら、高知初の「みのりの家」の物語が、今、始まります～！

連日の猛暑の中、毎日頑張ってくださっている皆さんに心から感謝します。

いつもありがとうございます。

2025年7月10日

呉 静恵

